

平成26年度  
第2回市政モニターアンケート

障害福祉施策について

北九州市市民文化スポーツ局広聴課

## 目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
【1. 障害のある方への理解や関心について】	
(1) 障害のある方との交流経験の有無	2
(2) 障害のある方との交流の具体的な内容	3
(3) 障害のある方と交流した経験がない理由	4
(4) 障害者福祉への関心の程度	5
(5) 障害者福祉に「大変関心がある」理由	6
(6) 障害者福祉に「ある程度関心がある」理由	7
(7) 障害のある方に対する差別・偏見を感じるか	8
(8) 障害のある方に対する差別・偏見を「よく感じることもある」理由	9
(9) 障害のある方に対する差別・偏見を「ときどき感じることもある」理由	10
【2. 北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について】	
(10) 障害者の雇用・就業機会の確保と拡大について	11
(11) 障害者就労施設等の物品等に対する需要の拡大等について	12
(12) 発達障害のある人に対する理解について	13
(13) 障害のある人の人権の尊重について	15
【3. 共生社会を実現するために必要な取り組みについて】	
(14) 共生社会を実現するために今後さらに力を入れるべき取り組みについて	16
(15) 北九州市の障害福祉施策についての意見	18
IV 全体考察	19

## I 調査の概要

調査対象者	市政モニター 150人		
回答者数	145人 (回収率 96.7%)		
調査実施日	平成26年6月19日～平成26年7月14日		
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査		
調査実施課	市民文化スポーツ局広聴課	TEL 582-2527	
調査依頼課	保健福祉局障害福祉課	TEL 582-2424	

## II 市政モニターの構成

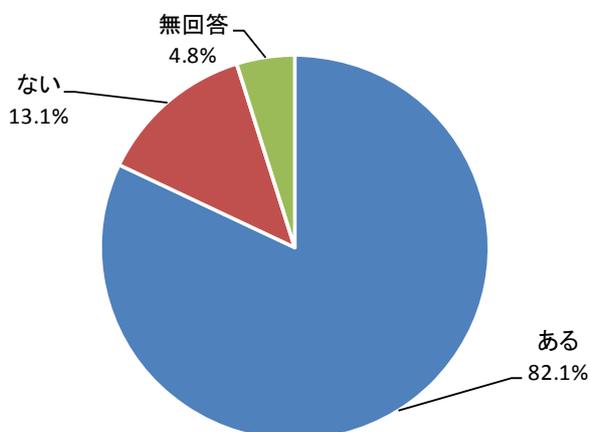
区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 (100.0%)	49 (32.7%)	101 (67.3%)	《区 別》			
				門司区	10 (6.7%)	3 (2.0%)	7 (4.7%)
20歳代	9 (6.0%)	5 (3.3%)	4 (2.7%)	小倉北区	19 (12.7%)	8 (5.3%)	11 (7.3%)
30歳代	38 (25.3%)	4 (2.7%)	34 (22.7%)	小倉南区	25 (16.7%)	4 (2.7%)	21 (14.0%)
40歳代	29 (19.3%)	11 (7.3%)	18 (12.0%)	若松区	19 (12.7%)	6 (4.0%)	13 (8.7%)
50歳代	19 (12.7%)	1 (0.7%)	18 (12.0%)	八幡東区	19 (12.7%)	7 (4.7%)	12 (8.0%)
60歳代	33 (22.0%)	16 (10.7%)	17 (11.3%)	八幡西区	48 (32.0%)	17 (11.3%)	31 (20.7%)
70歳以上	22 (14.7%)	12 (8.0%)	10 (6.7%)	戸畑区	10 (6.7%)	4 (2.7%)	6 (4.0%)

※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

### Ⅲ 調査結果

#### 【1. 障害のある方への理解や関心について】

問1 あなたは、今までに障害のある方に接したり、交流したりした経験がありますか。

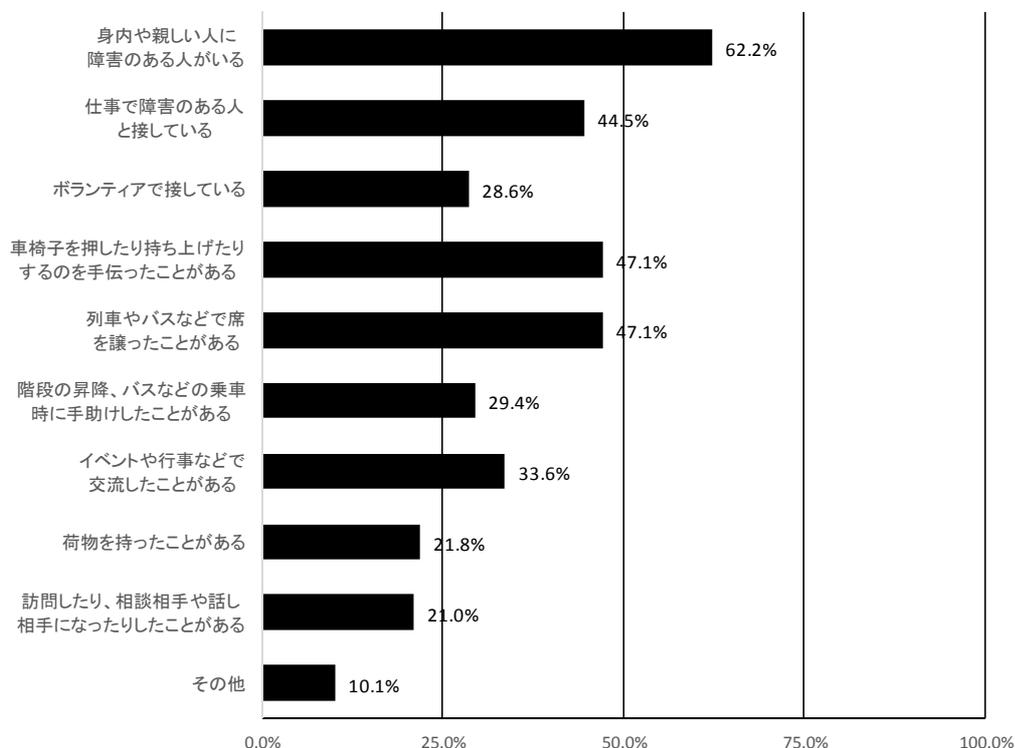


		回答者数	ある	ない	無回答
全体		145人	82.1%	13.1%	4.8%
性別	男性	48人	83.3%	16.7%	0.0%
	女性	97人	81.4%	11.3%	7.2%
年齢別	20歳代	8人	62.5%	37.5%	0.0%
	30歳代	36人	77.8%	16.7%	5.6%
	40歳代	28人	96.4%	3.6%	0.0%
	50歳代	19人	89.5%	10.5%	0.0%
	60歳代	32人	93.8%	6.3%	0.0%
	70歳以上	22人	54.5%	22.7%	22.7%
区別	門司区	10人	80.0%	20.0%	0.0%
	小倉北区	19人	84.2%	15.8%	0.0%
	小倉南区	23人	69.6%	21.7%	8.7%
	若松区	18人	66.7%	27.8%	5.6%
	八幡東区	17人	76.5%	11.8%	11.8%
	八幡西区	48人	91.7%	4.2%	4.2%
	戸畑区	10人	100.0%	0.0%	0.0%

障害のある方に接したり、交流したりした経験が「ある」は、82.1%であった。  
年齢別に見ると、40歳代から60歳代については、約9割が「ある」との回答であった。

<問1で「1 ある」と答えた方におたずねします>

問2 それは具体的にどのようなことですか。(〇はいくつでも)

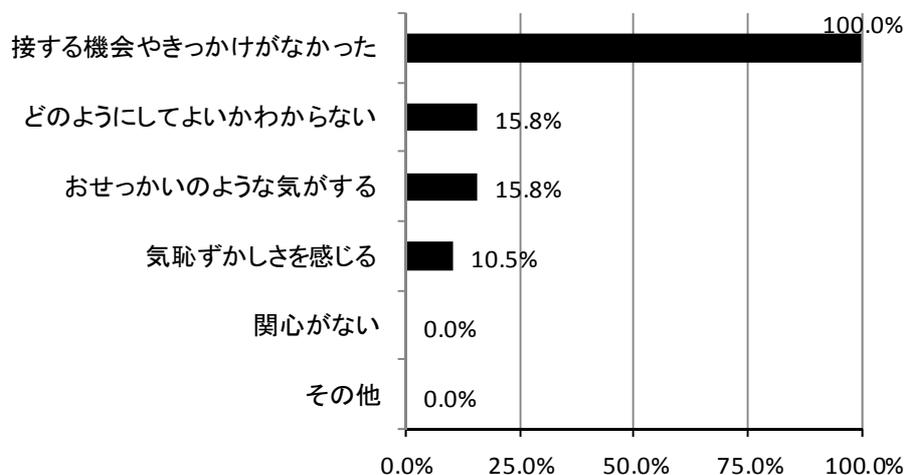


		回答者数	身内や親しい人に障害のある人がいる	仕事で障害のある人と接している	ボランティアで接している	車椅子を押したり持ち上げたりするのを手伝ったことがある	列車やバスなどで席を譲ったことがある	階段の昇降、バスなどの乗車時に手助けしたことがある	イベントや行事などで交流したことがある	荷物を持ったことがある	訪問したり、相談相手や話し相手になったりしたことがある	その他
全体		119	62.2%	44.5%	28.6%	47.1%	47.1%	29.4%	33.6%	21.8%	21.0%	10.1%
性別	男性	40	55.0%	45.0%	27.5%	50.0%	45.0%	35.0%	32.5%	27.5%	17.5%	7.5%
	女性	79	65.8%	44.3%	29.1%	45.6%	48.1%	26.6%	34.2%	19.0%	22.8%	11.4%
年齢別	20歳代	5	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	28	50.0%	25.0%	28.6%	35.7%	39.3%	21.4%	25.0%	14.3%	10.7%	3.6%
	40歳代	27	66.7%	63.0%	18.5%	33.3%	25.9%	25.9%	29.6%	18.5%	11.1%	11.1%
	50歳代	17	76.5%	52.9%	58.8%	58.8%	58.8%	23.5%	52.9%	29.4%	41.2%	11.8%
	60歳代	30	66.7%	50.0%	26.7%	60.0%	60.0%	33.3%	36.7%	26.7%	23.3%	16.7%
	70歳以上	12	58.3%	25.0%	25.0%	66.7%	66.7%	50.0%	25.0%	33.3%	41.7%	8.3%
区別	門司区	8	75.0%	62.5%	37.5%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%
	小倉北区	16	43.8%	25.0%	31.3%	56.3%	62.5%	37.5%	31.3%	18.8%	25.0%	12.5%
	小倉南区	16	56.3%	68.8%	31.3%	50.0%	50.0%	37.5%	25.0%	25.0%	12.5%	0.0%
	若松区	12	58.3%	50.0%	33.3%	33.3%	41.7%	41.7%	33.3%	16.7%	25.0%	8.3%
	八幡東区	13	69.2%	46.2%	23.1%	38.5%	46.2%	46.2%	38.5%	30.8%	23.1%	0.0%
	八幡西区	44	65.9%	38.6%	27.3%	52.3%	43.2%	27.3%	43.2%	22.7%	27.3%	13.6%
	戸畑区	10	70.0%	30.0%	10.0%	10.0%	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%

障害のある方に接したり、交流したりした経験の具体的な内容は、「身内や親しい人に障害のある人がいる」(62.2%)の割合が最も高く、次いで「車椅子を押したり持ち上げたりするのを手伝ったことがある」(47.1%)、「列車やバスなどで席を譲ったことがある」(47.1%)の順であった。

<問1で「2 ない」と答えた方におたずねします>

問3 接した経験がない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

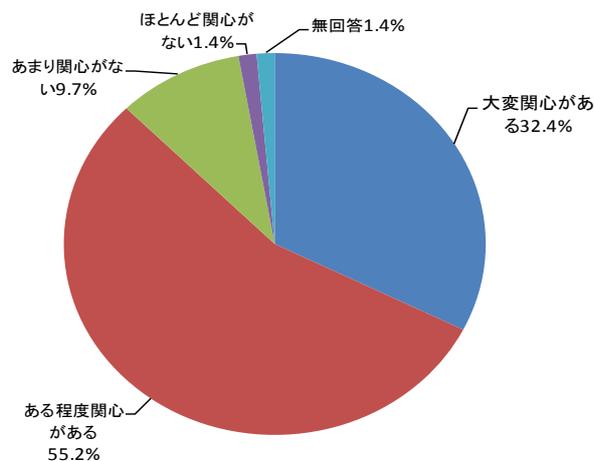


		回答者数	接する機会や きっかけがな かった	どのようにして よいかわから ない	おせっかいの ような気がする	気恥ずかしさ を感じる	関心がない	その他
全体		19	100.0%	15.8%	15.8%	10.5%	0.0%	0.0%
性別	男性	8	100.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	女性	11	100.0%	18.2%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳代	3	100.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	6	100.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	2	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	5	100.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	5	100.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	若松区	5	100.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	2	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	2	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

障害のある方に接したり、交流したりしたことがない理由として、100%の方が「接する機会やきっかけがなかった」と回答した。

「関心がない」と回答した方は0%であった。

問4 あなたは、障害者福祉に関心をお持ちですか。(〇は1つだけ)



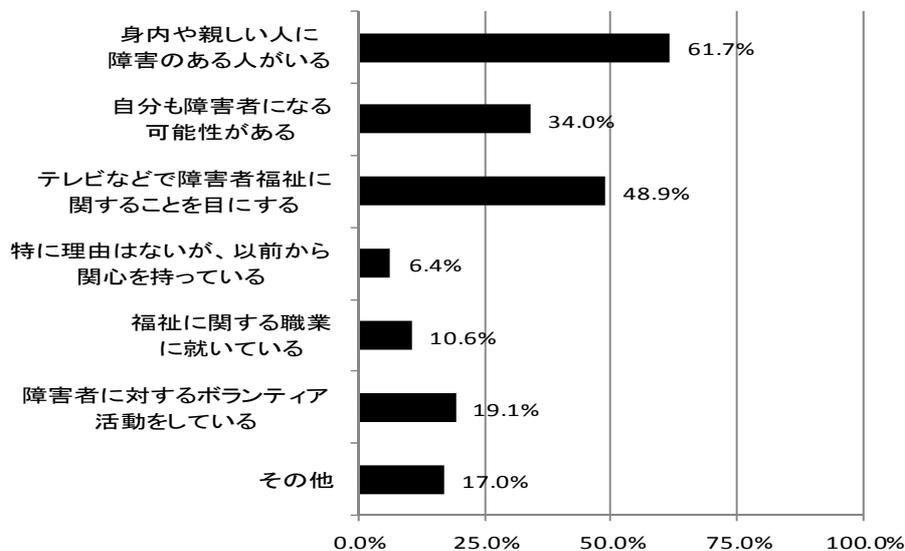
		回答者数	大変関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	ほとんど関心がない	無回答
全体		145人	32.4%	55.2%	9.7%	1.4%	1.4%
性別	男性	48人	27.1%	58.3%	8.3%	2.1%	4.2%
	女性	97人	35.1%	53.6%	10.3%	1.0%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	36人	16.7%	55.6%	22.2%	5.6%	0.0%
	40歳代	28人	32.1%	53.6%	10.7%	0.0%	3.6%
	50歳代	19人	42.1%	52.6%	5.3%	0.0%	0.0%
	60歳代	32人	50.0%	40.6%	6.3%	0.0%	3.1%
	70歳以上	22人	31.8%	68.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	区別	門司区	10人	30.0%	50.0%	10.0%	0.0%
	小倉北区	19人	47.4%	36.8%	10.5%	5.3%	0.0%
	小倉南区	23人	26.1%	69.6%	4.3%	0.0%	0.0%
	若松区	18人	33.3%	61.1%	5.6%	0.0%	0.0%
	八幡東区	17人	17.6%	76.5%	5.9%	0.0%	0.0%
	八幡西区	48人	33.3%	47.9%	14.6%	2.1%	2.1%
	戸畑区	10人	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%

「大変関心がある」(32.4%)、「ある程度関心がある」(55.2%)を合わせた87.6%が障害者福祉に関心を持っているとの回答だった。

年齢別でみると、20歳代と70歳以上で、「大変関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合が100%となった。

<問4で「1 大変関心がある」と答えた方におたずねします>

問5 どのような理由から関心をお持ちですか。(〇はいくつでも)

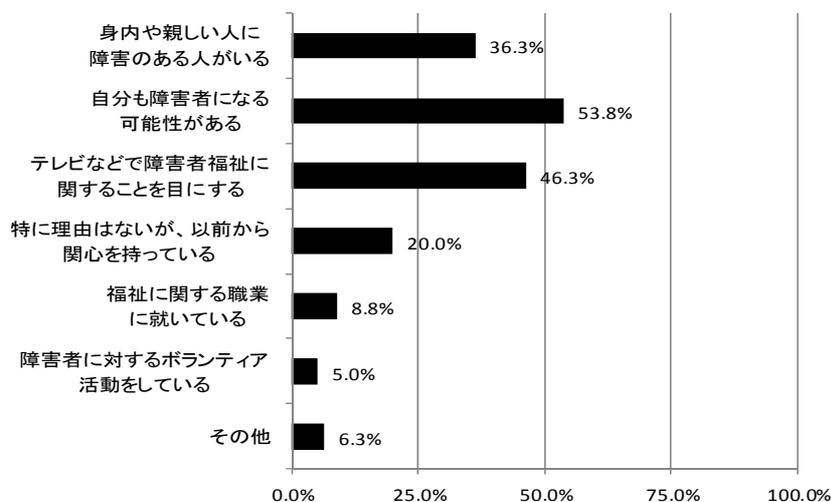


	回答者数	身内や親しい人に障害のある人がいる	自分も障害者になる可能性がある	テレビなどで障害者福祉に関することを目にする	特に理由はないが、以前から関心を持っている	福祉に関する職業に就いている	障害者に対するボランティア活動をしている	その他	
全体	47	61.7%	34.0%	48.9%	6.4%	10.6%	19.1%	17.0%	
性別	男性	13	46.2%	38.5%	53.8%	7.7%	15.4%	23.1%	23.1%
	女性	34	67.6%	32.4%	47.1%	5.9%	8.8%	17.6%	14.7%
年齢別	20歳代	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	6	50.0%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	40歳代	9	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	11.1%
	50歳代	8	75.0%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%
	60歳代	16	68.8%	43.8%	37.5%	6.3%	6.3%	18.8%	31.3%
	70歳以上	7	42.9%	28.6%	85.7%	28.6%	0.0%	42.9%	28.6%
区別	門司区	3	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	小倉北区	9	55.6%	22.2%	55.6%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%
	小倉南区	6	66.7%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%
	若松区	6	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%
	八幡東区	3	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
	八幡西区	16	68.8%	37.5%	31.3%	0.0%	18.8%	6.3%	25.0%
	戸畑区	4	50.0%	100.0%	100.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%

どのような理由から障害者福祉に関心を持ったかについては、「身内や親しい人に障害のある人がいる」(61.7%)の割合が最も高く、次いで「テレビなどで障害者福祉に関することを目にする」(48.9%)、「自分も障害者になる可能性がある」(34.0%)の順となっている。

<問4で「2 ある程度関心がある」と答えた方におたずねします>

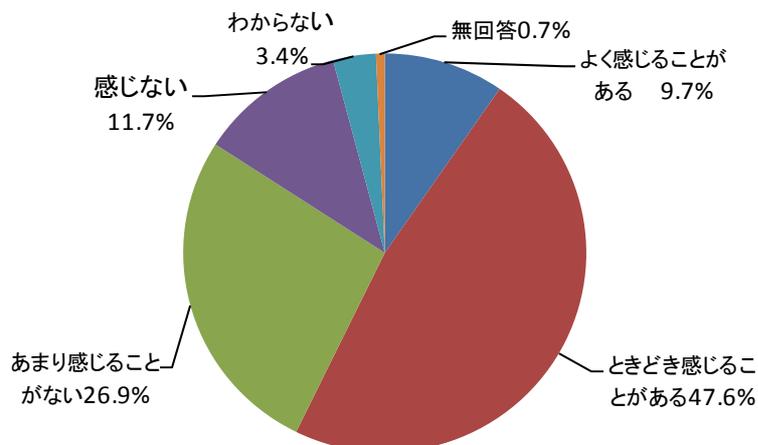
問6 どのような理由から関心をお持ちですか。



		回答者数	身内や親しい人に障害のある人がいる	自分も障害者になる可能性がある	テレビなどで障害者福祉に関することを目にする	特に理由はないが、以前から関心を持っている	福祉に関する職業に就いている	障害者に対するボランティア活動をしている	その他
全体		80	36.3%	53.8%	46.3%	20.0%	8.8%	5.0%	6.3%
性別	男性	28	28.6%	60.7%	46.4%	17.9%	3.6%	3.6%	10.7%
	女性	52	40.4%	50.0%	46.2%	21.2%	11.5%	5.8%	3.8%
年齢別	20歳代	7	0.0%	71.4%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	20	35.0%	45.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	10.0%
	40歳代	15	40.0%	33.3%	33.3%	26.7%	6.7%	6.7%	6.7%
	50歳代	10	50.0%	50.0%	50.0%	20.0%	10.0%	30.0%	0.0%
	60歳代	13	53.8%	61.5%	61.5%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	15	26.7%	73.3%	53.3%	13.3%	0.0%	0.0%	13.3%
区別	門司区	5	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%
	小倉北区	7	28.6%	71.4%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%
	小倉南区	16	31.3%	31.3%	56.3%	25.0%	12.5%	6.3%	0.0%
	若松区	11	27.3%	63.6%	36.4%	18.2%	9.1%	9.1%	9.1%
	八幡東区	13	53.8%	61.5%	61.5%	23.1%	15.4%	7.7%	7.7%
	八幡西区	23	39.1%	56.5%	47.8%	13.0%	0.0%	4.3%	0.0%
	戸畑区	5	20.0%	60.0%	40.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%

どのような理由から障害者福祉に関心を持ったかについては、「自分も障害者になる可能性がある」(53.8%)の割合が最も高く、次いで「テレビなどで障害者福祉に関することを目にする」(46.3%)、「身内や親しい人に障害のある人がいる」(36.3%)の順となっている。

問7 あなたは、日常生活や地域で障害のある方に対する差別・偏見などを感じることはありませんか。(〇は1つだけ)

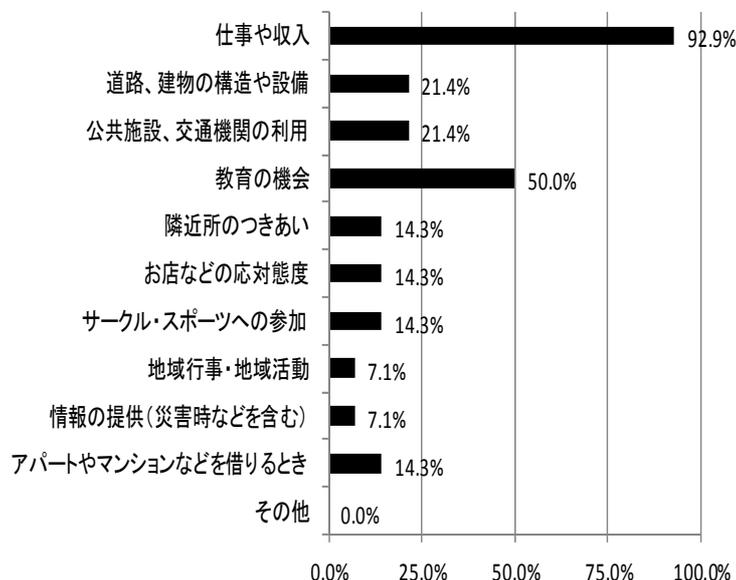


		回答者数	よく感じる ことがある	ときどき感 じることがあ る	あまり感 じることがな い	感じない	わからない	無回答
全体		145人	9.7%	47.6%	26.9%	11.7%	3.4%	0.7%
性別	男性	48人	10.4%	41.7%	29.2%	10.4%	6.3%	2.1%
	女性	97人	9.3%	50.5%	25.8%	12.4%	2.1%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	0.0%	37.5%	25.0%	25.0%	12.5%	0.0%
	30歳代	36人	8.3%	41.7%	25.0%	19.4%	5.6%	0.0%
	40歳代	28人	14.3%	42.9%	39.3%	3.6%	0.0%	0.0%
	50歳代	19人	10.5%	63.2%	26.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	32人	12.5%	50.0%	21.9%	9.4%	3.1%	3.1%
	70歳以上	22人	4.5%	50.0%	22.7%	18.2%	4.5%	0.0%
	区別	門司区	10人	20.0%	30.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	19人	15.8%	26.3%	21.1%	31.6%	5.3%	0.0%
	小倉南区	23人	4.3%	65.2%	17.4%	13.0%	0.0%	0.0%
	若松区	18人	5.6%	44.4%	38.9%	5.6%	5.6%	0.0%
	八幡東区	17人	5.9%	64.7%	11.8%	5.9%	11.8%	0.0%
	八幡西区	48人	12.5%	43.8%	29.2%	12.5%	0.0%	2.1%
	戸畑区	10人	0.0%	60.0%	30.0%	0.0%	10.0%	0.0%

「よく感じることもある」(9.7%)と「ときどき感じることもある」(47.6%)を合わせると57.3%となり、半数を超える方が日常生活や地域で障害のある方に対する差別・偏見などを感じるがあると回答している。

<問7で「1 よく感じることもある」と答えた方におたずねします>

問8 どのようなところに最も強く障害のある方に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じますか。(〇は特に感じるもの3つまで)

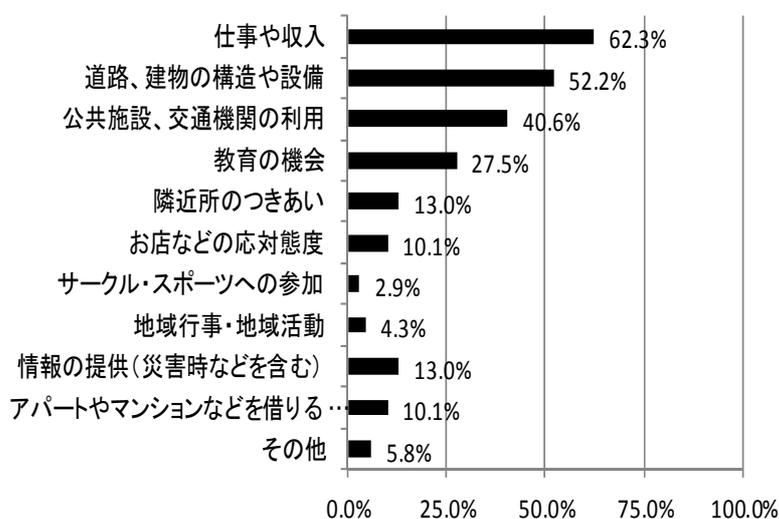


		回答者数	仕事や収入	道路、建物の構造や設備	公共施設、交通機関の利用	教育の機会	隣近所のつきあい	お店などの対応態度	サークル・スポーツへの参加	地域行事・地域活動	情報の提供(災害時などを含む)	アパートやマンションなどを借りるとき	その他
全体		14	92.9%	21.4%	21.4%	50.0%	14.3%	14.3%	14.3%	7.1%	7.1%	14.3%	0.0%
性別	男性	5	100.0%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	女性	9	88.9%	0.0%	11.1%	77.8%	22.2%	22.2%	22.2%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%
年齢別	20歳代	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
	40歳代	4	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	2	100.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	4	100.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	1	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	2	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	小倉北区	3	100.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	小倉南区	1	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	1	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	6	100.0%	0.0%	0.0%	83.3%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	戸畑区	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

最も強く障害のある方に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じている具体的な内容については、「仕事や収入」(92.9%)の割合がもっとも高く、次いで「教育の機会」(50.0%)の順だった。

<問7で「2 ときどき感じることもある」と答えた方におたずねします>

問9 どのようなところに最も強く障害のある方に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じますか。(〇は特に感じるもの3つまで)



		回答者数	仕事や収入	道路、建物の構造や設備	公共施設、交通機関の利用	教育の機会	隣近所のつきあい	お店などの対応態度	サークル・スポーツへの参加	地域行事・地域活動	情報の提供(災害時などを含む)	アパートやマンションなどを借りるとき	その他
全体		69	62.3%	52.2%	40.6%	27.5%	13.0%	10.1%	2.9%	4.3%	13.0%	10.1%	5.8%
性別	男性	20	55.0%	70.0%	40.0%	15.0%	10.0%	10.0%	0.0%	5.0%	5.0%	5.0%	15.0%
	女性	49	65.3%	44.9%	40.8%	32.7%	14.3%	10.2%	4.1%	4.1%	16.3%	12.2%	2.0%
年齢別	20歳代	3	66.7%	66.7%	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	15	53.3%	46.7%	40.0%	26.7%	6.7%	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%	13.3%	0.0%
	40歳代	12	0.0%	50.0%	25.0%	33.3%	8.3%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%
	50歳代	12	75.0%	33.3%	41.7%	41.7%	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%
	60歳代	16	50.0%	56.3%	31.3%	12.5%	25.0%	12.5%	6.3%	18.8%	18.8%	12.5%	12.5%
	70歳以上	11	63.6%	45.5%	54.5%	27.3%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	18.2%	9.1%	9.1%
区別	門司区	3	100.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	小倉北区	5	40.0%	60.0%	40.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%
	小倉南区	15	46.7%	46.7%	53.3%	33.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	6.7%	0.0%
	若松区	8	75.0%	62.5%	62.5%	25.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11	90.9%	36.4%	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%	9.1%	27.3%	9.1%
	八幡西区	21	57.1%	61.9%	33.3%	33.3%	14.3%	9.5%	4.8%	4.8%	9.5%	9.5%	9.5%
	戸畑区	6	50.0%	50.0%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%

最も強く障害のある方に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じている具体的な内容は、「仕事や収入」(62.3%)の割合が最も高く、次いで、「道路、建物の構造や設備」(52.2%)、「公共施設、交通機関の利用」(40.6%)の順となっている

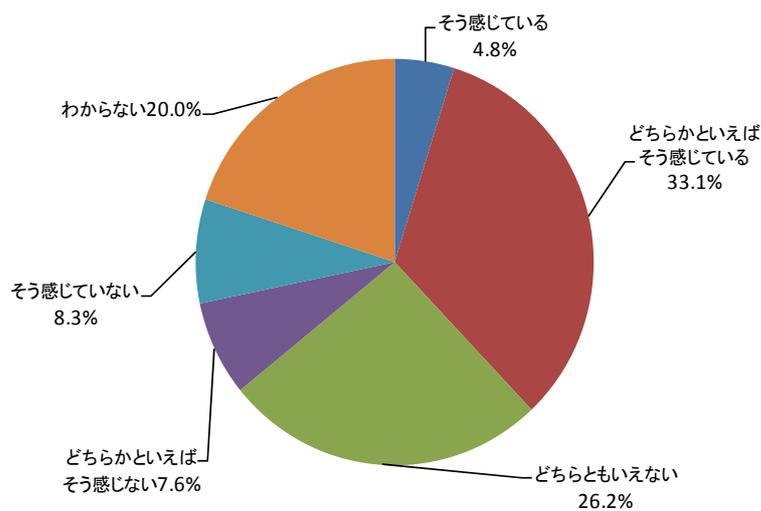
## 【2. 北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について】

### 【障害者の雇用・就業機会の確保と拡大】

問10 北九州市では、働く意欲のある障害のある人の雇用を促進するため、障害者しごとサポートセンターを設置し、障害のある人への就労支援に取り組んでいます。

また、企業での障害のある人の雇用を促進するための取り組み、一般企業等での就労が困難な人に働く場を提供し、必要な支援を行う就労継続支援事業所等の充実などにも取り組んでいます。

そこで、おたずねします。あなたは、北九州市では、障害者の能力や意欲に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じますか。(○は1つだけ)



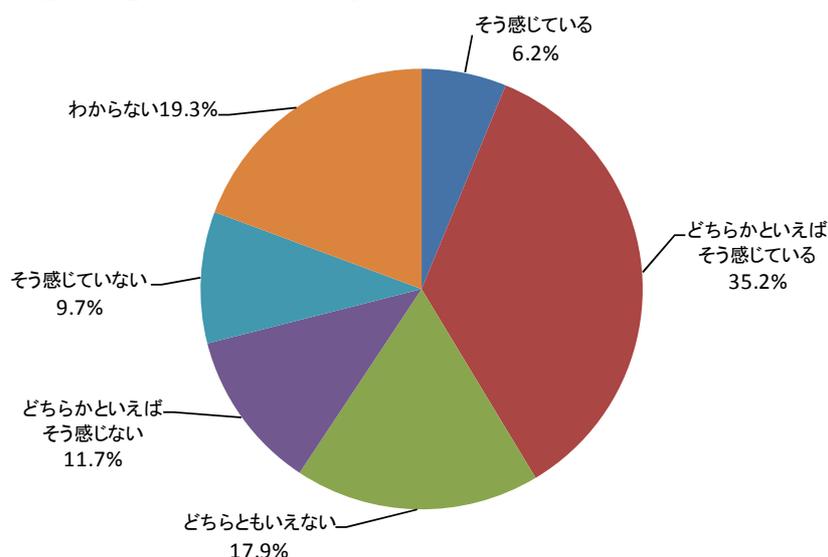
		回答者数	そう感じている	どちらかといえば そう感じている	どちらともい えない	どちらかとい えばそう感じ ない	そう感じてい ない	わからない	無回答
全体		145人	4.8%	33.1%	26.2%	7.6%	8.3%	20.0%	0.0%
性別	男性	48人	8.3%	27.1%	31.3%	12.5%	10.4%	10.4%	0.0%
	女性	97人	3.1%	36.1%	23.7%	5.2%	7.2%	24.7%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	0.0%	37.5%	25.0%	12.5%	0.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	36人	8.3%	25.0%	16.7%	2.8%	13.9%	33.3%	0.0%
	40歳代	28人	10.7%	32.1%	21.4%	14.3%	7.1%	14.3%	0.0%
	50歳代	19人	0.0%	36.8%	36.8%	5.3%	5.3%	15.8%	0.0%
	60歳代	32人	0.0%	34.4%	28.1%	9.4%	9.4%	18.8%	0.0%
	70歳以上	22人	4.5%	40.9%	36.4%	4.5%	4.5%	9.1%	0.0%
	門司区	10人	10.0%	40.0%	20.0%	10.0%	0.0%	20.0%	0.0%
区別	小倉北区	19人	5.3%	31.6%	21.1%	0.0%	21.1%	21.1%	0.0%
	小倉南区	23人	8.7%	21.7%	8.7%	13.0%	8.7%	39.1%	0.0%
	若松区	18人	0.0%	33.3%	33.3%	11.1%	5.6%	16.7%	0.0%
	八幡東区	17人	11.8%	41.2%	41.2%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%
	八幡西区	48人	2.1%	29.2%	33.3%	10.4%	10.4%	14.6%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	60.0%	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%	0.0%

北九州市では、障害者の能力や意欲に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じるかについては、「そう感じている」(4.8%)、「どちらかといえばそう感じている」(33.1%)を合わせた37.9%が肯定的な回答で、「どちらかといえばそう感じない」(7.6%)、「そう感じない」(8.3%)を合わせた15.9%が否定的な回答であり、肯定的な回答が否定的な回答を22ポイント上回った。

## 【障害者就労施設等の物品等に対する需要の拡大等】

問11 北九州市では、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るとともに、北九州市内の障害福祉サービス事業所等で作っている商品等の質の向上や魅力ある商品の開発、販路の開拓・拡大等を図る「北九州NUKUMORI（ぬくもり）プロジェクト推進事業」に取り組んでいます。本年3月には、障害福祉サービス事業所等の協働による「北九州ぬくもりブランド」商品が完成し、障害者自立支援ショップ「一丁目の元気」（小倉北区京町）で試験販売を行いました。そこでおたずねします。

あなたは、北九州市では、障害者就労施設等の物品等に対する需要を拡大するための取り組みが進んできたと感じますか。（○は1つだけ）



	回答者数	そう感じている	どちらかといえば そう感じている	どちらともい えない	どちらかとい えばそう感じない	そう感じてい ない	わからない	無回答	
全体	145人	6.2%	35.2%	17.9%	11.7%	9.7%	19.3%	0.0%	
性別	男性	48人	6.3%	29.2%	16.7%	14.6%	18.8%	14.6%	0.0%
	女性	97人	6.2%	38.1%	18.6%	10.3%	5.2%	21.6%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	36人	5.6%	38.9%	8.3%	5.6%	13.9%	27.8%	0.0%
	40歳代	28人	17.9%	25.0%	10.7%	28.6%	3.6%	14.3%	0.0%
	50歳代	19人	5.3%	42.1%	21.1%	15.8%	0.0%	15.8%	0.0%
	60歳代	32人	0.0%	31.3%	15.6%	12.5%	21.9%	18.8%	0.0%
	70歳以上	22人	4.5%	36.4%	40.9%	0.0%	4.5%	13.6%	0.0%
区別	門司区	10人	0.0%	30.0%	20.0%	20.0%	10.0%	20.0%	0.0%
	小倉北区	19人	5.3%	31.6%	10.5%	15.8%	15.8%	21.1%	0.0%
	小倉南区	23人	17.4%	26.1%	4.3%	13.0%	8.7%	30.4%	0.0%
	若松区	18人	0.0%	50.0%	16.7%	5.6%	5.6%	22.2%	0.0%
	八幡東区	17人	11.8%	47.1%	29.4%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%
	八幡西区	48人	4.2%	27.1%	22.9%	14.6%	14.6%	16.7%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%

北九州市では、障害者就労施設等の物品等に対する需要を拡大するための取り組みが進んできたと感じるかについては、「そう感じている」（6.2%）、「どちらかといえばそう感じている」（35.2%）を合わせた41.4%が肯定的な回答で、「どちらかといえばそう感じない」（11.7%）、「そう感じていない」（9.7%）を合わせた21.4%が否定的な回答であり、肯定的な回答が否定的な回答を20ポイント上回った。

## 【発達障害のある人に対する理解】

問12 北九州市では、発達障害（※）のある人がライフステージに応じた一貫した支援が受けられるよう、子育て（保育所、幼稚園等）、教育（小中学校、特別支援学校）、福祉（基幹相談支援センター、区役所、子ども総合センター）、医療（総合療育センター、各医療機関）等の関係部署が一体となって取り組んでいます。

また、個別の相談などの支援活動は、北九州市発達障害者支援センター「つばさ」を中心に行っています。

さらに、講演会やパンフレットの配布などにより、発達障害の特性や支援の状況等について紹介するなど発達障害の理解の促進を図っています。

### ※「発達障害」について

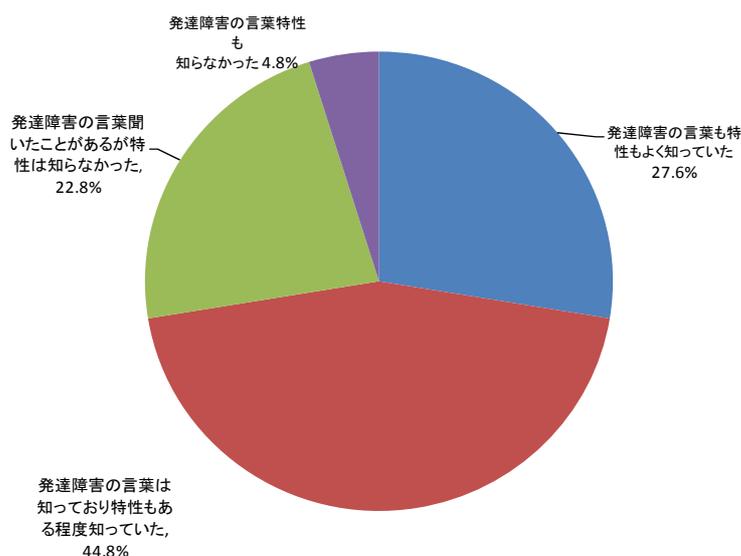
発達障害は、親の育て方や本人の性格によるものではなく、脳の機能障害によってもたらされるもので、自閉症、アスペルガー症候群、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）などがあります。

その特性は障害によって様々ですが、例えば、突然予定が変わるとパニックを起こす、こだわりが極端に強い、人とのコミュニケーションがうまく取れない、曖昧な表現を理解することが苦手、などが見受けられます。

本人にあった適切な関わりや環境調整があれば、社会の中で豊かな才能を発揮することができます。

そこで、おたずねします。

あなたは、発達障害についてご存知でしたか。（○は1つだけ）



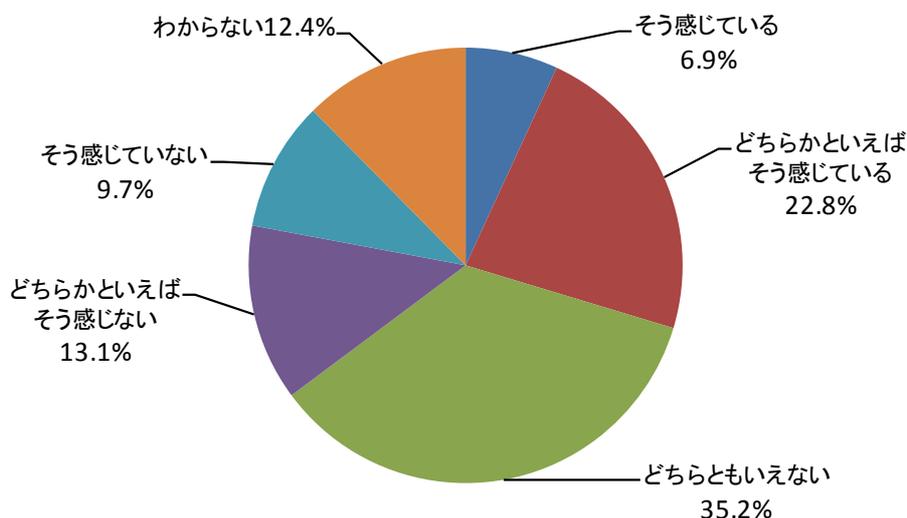
		回答者数	発達障害の言葉も特性もよく知っていた	発達障害の言葉は知っており特性もある程度知っていた	発達障害の言葉聞いたことがあるが特性は知らなかった	発達障害の言葉も特性も知らなかった	無回答
全体		145人	27.6%	44.8%	22.8%	4.8%	0.0%
性別	男性	48人	25.0%	29.2%	39.6%	6.3%	0.0%
	女性	97人	28.9%	52.6%	14.4%	4.1%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	12.5%	62.5%	0.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	36人	30.6%	52.8%	16.7%	0.0%	0.0%
	40歳代	28人	42.9%	32.1%	25.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	19人	42.1%	52.6%	5.3%	0.0%	0.0%
	60歳代	32人	21.9%	46.9%	25.0%	6.3%	0.0%
	70歳以上	22人	4.5%	31.8%	50.0%	13.6%	0.0%
区別	門司区	10人	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	19人	26.3%	36.8%	31.6%	5.3%	0.0%
	小倉南区	23人	30.4%	47.8%	17.4%	4.3%	0.0%
	若松区	18人	16.7%	44.4%	22.2%	16.7%	0.0%
	八幡東区	17人	41.2%	35.3%	17.6%	5.9%	0.0%
	八幡西区	48人	27.1%	45.8%	25.0%	2.1%	0.0%
	戸畑区	10人	30.0%	60.0%	10.0%	0.0%	0.0%

発達障害について知っているかについては、「発達障害の言葉も特性もよく知っていた」(27.6%)、「発達障害の言葉は知っており特性もある程度知っていた」(44.8%)を合わせた72.4%が発達障害について知っているとの回答で、「発達障害の言葉も特性も知らなかった」(4.8%)を67.6ポイント上回った。

### 【障害のある人の人権の尊重】

問13 北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解を深め、障害の有無にかかわらず、相互に権利を尊重できる社会を実現するため、行政だけでなく地域・学校・企業など様々な機会をとらえた市民啓発を推進しています。そこで、おたずねします。

あなたは、北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと感じますか。(〇は1つだけ)



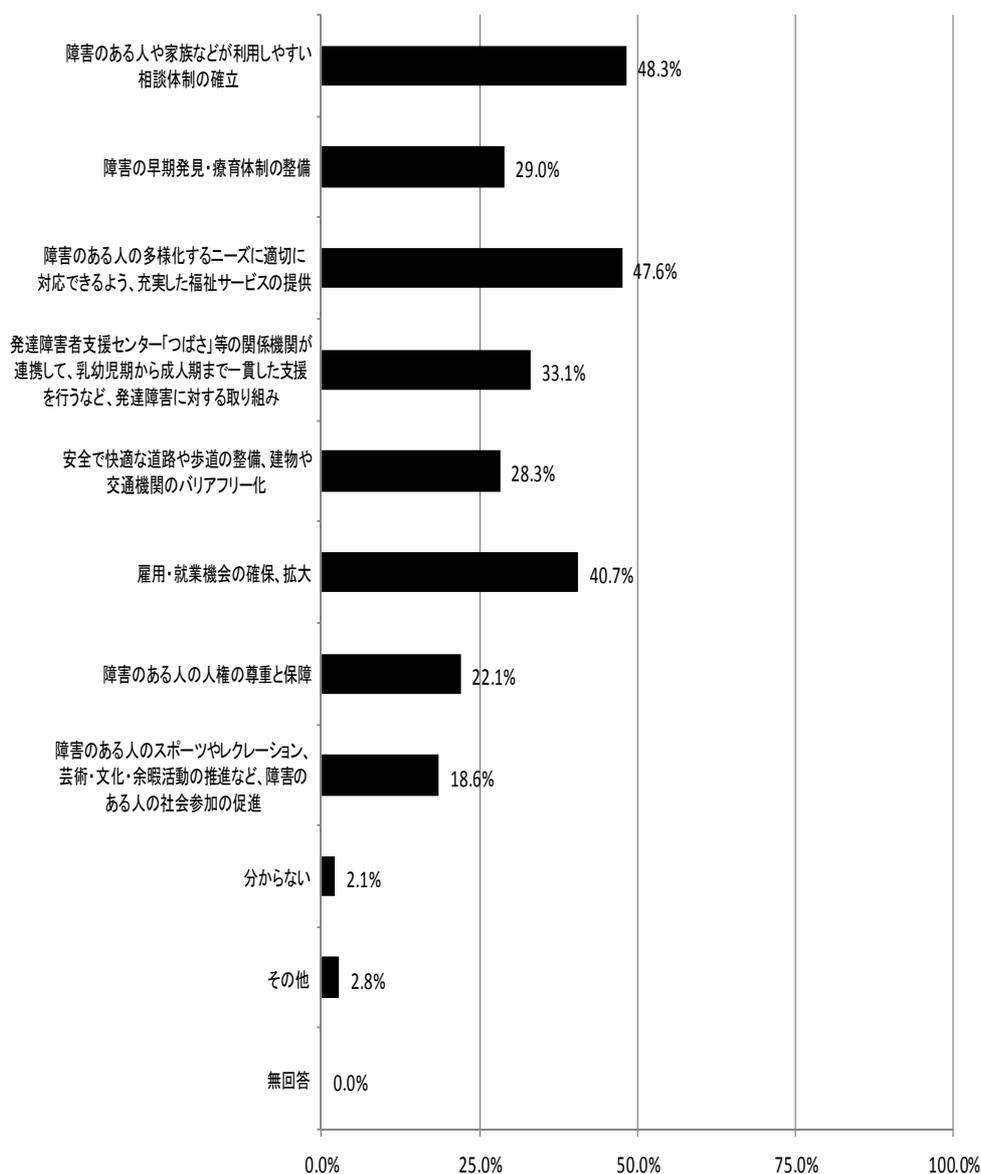
		回答者数	そう感じている	どちらかといえばそう感じている	どちらともいえない	どちらかといえばそう感じない	そう感じていない	わからない	無回答
全体		145人	6.9%	22.8%	35.2%	13.1%	9.7%	12.4%	0.0%
性別	男性	48人	8.3%	20.8%	39.6%	8.3%	12.5%	10.4%	0.0%
	女性	97人	6.2%	23.7%	33.0%	15.5%	8.2%	13.4%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	12.5%	12.5%	50.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%
	30歳代	36人	11.1%	16.7%	27.8%	16.7%	8.3%	19.4%	0.0%
	40歳代	28人	7.1%	21.4%	21.4%	28.6%	14.3%	7.1%	0.0%
	50歳代	19人	5.3%	15.8%	63.2%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%
	60歳代	32人	0.0%	28.1%	37.5%	3.1%	12.5%	18.8%	0.0%
	70歳以上	22人	9.1%	36.4%	31.8%	9.1%	4.5%	9.1%	0.0%
区別	門司区	10人	0.0%	30.0%	30.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%
	小倉北区	19人	5.3%	31.6%	15.8%	15.8%	21.1%	10.5%	0.0%
	小倉南区	23人	8.7%	17.4%	30.4%	17.4%	4.3%	21.7%	0.0%
	若松区	18人	11.1%	16.7%	38.9%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%
	八幡東区	17人	11.8%	29.4%	41.2%	11.8%	0.0%	5.9%	0.0%
	八幡西区	48人	6.3%	18.8%	41.7%	10.4%	12.5%	10.4%	0.0%
	戸畑区	10人	0.0%	30.0%	40.0%	10.0%	0.0%	20.0%	0.0%

北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと感じるかについては、「そう感じている」(6.9%)、「どちらかといえばそう感じている」(22.8%)を合わせた29.7%が肯定的な回答で、「どちらかといえばそう感じない」(13.1%)、「そう感じていない」(9.7%)を合わせた22.8%が否定的な回答であり、肯定的な回答が否定的な回答を6.9ポイント上回った。

一方で、「どちらともいえない」の回答が35.2%と高くなっている。

### 【3. 共生社会を実現するために必要な取り組みについて】

問14 あなたは、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生社会を実現するにあたって、今後さらに力を入れるべき取り組みは何だと思いますか。次の中から、あてはまるものを選んでください（〇は3つまで）。



	回答者数	障害のある人や家族などが利用しやすい相談体制の確立	障害の早期発見・療育体制の整備	障害のある人の多様化するニーズに適切に対応できるよう、充実した福祉サービスの提供	発達障害者支援センター「つばさ」等の関係機関が連携して、乳幼児期から成人期まで一貫した支援を行うなど、発達障害に対する取り組み	安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化	雇用・就業機会の確保、拡大	障害のある人の人権の尊重と保障	障害のある人のスポーツやレクリエーション、芸術・文化・余暇活動の推進など、障害のある人の社会参加の促進	分からない	その他	無回答	
全体	145人	48.3%	29.0%	47.6%	33.1%	28.3%	40.7%	22.1%	18.6%	2.1%	2.8%	0.0%	
性別	男性	48人	45.8%	31.3%	54.2%	22.9%	20.8%	39.6%	25.0%	14.6%	2.1%	4.2%	0.0%
	女性	97人	49.5%	27.8%	44.3%	38.1%	32.0%	41.2%	20.6%	20.6%	2.1%	2.1%	0.0%
年齢別	20歳代	8人	62.5%	37.5%	62.5%	12.5%	37.5%	37.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	36人	41.7%	36.1%	36.1%	44.4%	36.1%	36.1%	22.2%	5.6%	2.8%	0.0%	0.0%
	40歳代	28人	50.0%	25.0%	46.4%	28.6%	25.0%	46.4%	32.1%	21.4%	3.6%	0.0%	0.0%
	50歳代	19人	47.4%	10.5%	52.6%	31.6%	26.3%	63.2%	21.1%	15.8%	0.0%	5.3%	0.0%
	60歳代	32人	46.9%	28.1%	56.3%	28.1%	28.1%	34.4%	25.0%	25.0%	0.0%	6.3%	0.0%
	70歳以上	22人	54.5%	36.4%	45.5%	36.4%	18.2%	31.8%	9.1%	31.8%	4.5%	4.5%	0.0%
区別	門司区	10人	40.0%	30.0%	60.0%	20.0%	30.0%	40.0%	30.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	小倉北区	19人	26.3%	26.3%	57.9%	21.1%	21.1%	47.4%	21.1%	10.5%	5.3%	10.5%	0.0%
	小倉南区	23人	65.2%	39.1%	47.8%	21.7%	43.5%	17.4%	34.8%	13.0%	4.3%	0.0%	0.0%
	若松区	18人	44.4%	38.9%	44.4%	44.4%	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	5.6%	0.0%	0.0%
	八幡東区	17人	58.8%	11.8%	52.9%	35.3%	29.4%	47.1%	29.4%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	48人	45.8%	29.2%	41.7%	37.5%	27.1%	39.6%	22.9%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	10人	60.0%	20.0%	40.0%	50.0%	30.0%	60.0%	10.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%

共生社会を実現するにあたって、今後さらに力を入れるべき取り組みは何かについては、「障害のある人や家族などが利用しやすい相談体制の確立」(48.3%)の割合が最も高く、次いで「障害のある人の多様化するニーズに適切に対応できるよう、充実した福祉サービスの提供」(47.6%)、「雇用・就業機会の確保、拡大」(40.7%)の順となっている。

問15 北九州市の障害福祉施策について、その他ご意見がありましたらご自由にご記入ください。

78件のご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

- 「施策」にはかなり力を入れていると思える。しかし、障害者各自が「社会参加意識」をあげることが必要と思う。ソフト面でも是非、今まで以上に取り組んでいただきたい。
- 視覚障害者用の点字タイルを貼っている歩道に車を駐車する。あるいは、狭い歩道に乗り上げて駐車すると車いすは通れない。障害者に対して配慮した施設だけでは効果はなく、障害者が利用することを考え行動する市民の意識を高めないかぎり福祉は前進しないと思う。
- 幼い頃から、障害者と接する機会があまりにもなさ過ぎるので、偏見が起こるのではと思う。ビデオや本での教育だけでなく、ボランティア活動への参加を促すなど障害者と接する機会を持たせる事が必要と思う。
- 障害者も健常者も同じ人間。同じように社会で暮らしていけるはずなのに、どこか、人の心の中にまだ偏見があるのかもしれない。
- 障害者への差別や偏見をなくすためには、地域が一体となり取り組む体制が必要と思う。
- この数年間に進められた発達障害に関する福祉、教育などの連携に関する取り組みは、画期的なことだった。今後は、家族支援にも力を入れて欲しい。
- 幼児期の軽度発達障害に関しては色々と手厚い支援があるが、小学生以降はなかなか難しいものがあると思う。また、高校以降の情報は県になってしまうため、一貫した情報提供をしていただくことが難しいと感じている。できるだけきめ細かい対応をしていただきたいと思う。
- 自分が勤めている会社にも第3セクターがあり、障害のある方を雇用している。ただ、そこで働ける人は、ひとにぎりの人で、ほとんどの人は面接を受ける機会もないと聞いている。一方だけ見ると支援が進んでいるように見えるが、全ての人にチャンスや雇用の確保がなされているのかという疑問に思う。障害のある方やその家族が生きがいを見つけられる社会を目指して欲しい。雇用・就業機会の確保は、最初に取り組むべき課題である。
- 今回のモニターアンケートで「北九州ぬくもりブランド」商品が完成し、試験販売を行なったことを知った。スポンサーを募って、商品の宣伝、販売店の場所や営業時間のお知らせなどの情報をテレビで放送したらどうか。デパートやコンビニなど集客の見込める場所に商品を置いてもらう等、検討したらどうか。
- 障害福祉に関する情報をもっと市の広報誌やホームページで紹介してほしい。

#### IV 全体考察

本市では、「第4期北九州市障害福祉計画（平成27年度～29年度）」を今年度中に策定することとしている。

障害福祉施策に関する市民の意見やご要望を伺い、その結果を本計画の基礎資料とするとともに、今後の本市の障害福祉施策の推進の参考とするためにアンケート調査を実施した。

##### 【障害のある方への理解や関心について】

障害のある方に接したり、交流したりした経験がある人は、全体の82.1%で、具体的な内容としては、「身内や親しい人に障害のある人がいる」(62.2%)の回答が最も多かった。

一方で、障害のある方に接したり、交流したりした経験がない理由としては、全ての方が「障害のある方と接する機会やきっかけがなかった」と回答している。

障害者福祉への関心度は、「大変関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると87.6%となり、その理由を尋ねたところ、「身内や親しい人に障害のある人がいる」（「大変関心がある」で61.7%、「ある程度関心がある」で36.3%）の回答が最も多かった。

日常生活や地域で障害のある方に対する差別・偏見などを感じることもある人は、「よく感じることもある」、「ときどき感じることもある」を合わせると、全体で57.3%で、具体的に、どのようなところに最も強く障害のある方に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるか尋ねたところ、「仕事や収入」（「よく感じることもある」で92.9%、「ときどき感じることもある」で62.3%）の回答がもっとも多く、次いで「道路、建物の構造や設備」、「公共施設、交通機関の利用」の順となっている。

平成23年度に実施した前回調査結果と比較すると、障害のある方に接したり、交流したりした経験（「あり」前回：77.0%→今回：82.1%）及び障害者福祉への関心度（「関心あり」前回：80.0%→87.6%）では、前回調査結果を上回っており、障害のある方への理解や関心の度合いは高まってきていると思われる。

一方で、障害のある方に対する差別・偏見については、感じるものが「ある」の回答が、前回調査結果を上回っており（前回：「ある」50.4%→今回57.3%）、障害のある方に対する差別・偏見を解消するための一層の取り組みが必要である。

##### 【北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について】

北九州市がこれまで取り組んできた障害福祉施策の中から4つの施策をあげて、施策の取り組みに対する評価等についてたずねた。

障害者の能力や意欲に応じた多様な就業機会が確保されてきたと「感じる」人の割合（「どちらかといえばそう感じる」を含む。以下同じ。）は37.9%、「感じない」人の割合（「どちらかといえばそう感じない」を含む。以下同じ。）は15.9%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っている。

障害者就労施設等の物品等に対する需要を拡大するための取り組みが進んできたとして「感じる」人の割合は、41.4%、「感じない」人の割合は21.4%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っている。

「発達障害」の言葉や特性を「知っている」人の割合（「ある程度知っていた」を含む。）は72.4%、言葉も特性も「知らない」人の割合は4.8%となっている。

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたとして「感じる」人の割合は、29.7%、「感じない」人の割合は22.8%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っている。一方で、「どちらともいえない」の回答が35.2%と最も高くなっている。

4つの施策ともに、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っているが、「障害のある人の人権の尊重」については、「どちらともいえない」と感じている人の割合がもっとも高く、今後一層の取り組みが必要である。

#### **【共生社会を実現するために必要な取り組みについて】**

全ての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生社会を実現するため、さまざまな取り組みを進めてきたが、今後さらに力を入れるべき取り組みを尋ねたところ、「障害のある人や家族などが利用しやすい相談体制の確立」の割合が48.3%と最も高く、次いで「障害のある人の多様化するニーズに適切に対応できるよう、充実した福祉サービスの提供」(47.6%)、「雇用・就業機会の確保、拡大」(40.7%)の順となった。

これらについては、これまで取り組んできた施策であるが、今後も引き続き充実を図っていく必要がある。

#### **【まとめ】**

今回のアンケート結果を、第4期障害福祉計画策定の参考とするとともに、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことができる共生のまちづくりを進めるため、今後の障害福祉施策の推進に活かしていきたい。

#### **【市政モニターに関すること】**

市民文化スポーツ局市民部広聴課(TEL:582-2527)

#### **【アンケートに関すること】**

保健福祉局障害福祉部障害福祉課(TEL:582-2424)